



## 戸田駅はベビーブームの大賑わい

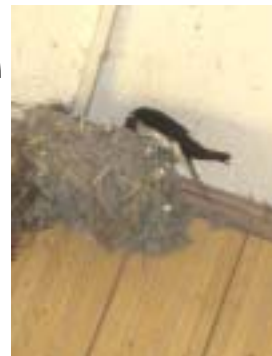
..... ツバメの巣が駅舎やプラットホームにいっぱい .....



「おかあちゃん、おなかすいた。ご飯まだ。」  
「はいはい、さあお食べ。順番だよ。」  
「僕のほうが先だよ。わあーん、お兄ちゃんが僕のご飯取った。」  
「これこれ、兄弟げんかなんかしらないの。あなた、なにをぼんやりしているの。しっかり、働いて子供たちに食べさせなければならぬのよ。さあさあ稼ぎに出かけて、出かけて。」  
「そうガミガミ言うなよ。俺だって一生懸命働いているんだ。」

少子高齢化の波が押し寄せているこの地区にあって、ここの共同住宅だけはベビー・ラッシュで大賑わいだ。

親たちは共稼ぎで働いていて、出たり入ったりの大忙し。育ち盛りの子供たちはいつもお腹を空かせていて、本当によく食べる。



ここは戸田駅。



駅舎ができて何十年経っているのだろう。



戸田駅が開業したのが1911年(明治44年)だから、おおよそその古さが押し量れる。その戸田駅の玄関、待合室、プラットホームなどに合わせて約20ものツバメの巣があり、さながらツバメのマンションといった感じだ。

そして、そこに住んでいるツバメたちは、ピーチク・パーチク駅の利用客もその住人たちの喧騒に思わず頬を緩め、



の大賑わい。微笑んでしまう。

風かおる5月の清々しい季節に、幸せを運んでくるというツバメたちが集う。そんな戸田駅の天井を仰いで、ツバメの一家の喧しい会話に耳を傾けてみてはいかが。